

こうのとり通信

～兵庫県助産師会だより～

一般社団法人 兵庫県助産師会
第7号(19) 平成28年3月31日発行
(発行部数 500部)

発行責任者 岸本 喜代子
編集責任者 谷川 裕子

神戸市中央区花隈町 9-25
グラン・ピア下山手通 003

TEL : 078-362-1310

FAX : 078-362-2737

<http://hyogo-josanshikai.com/>

ごあいさつ

一般社団法人 兵庫県助産師会

代表理事 岸本 喜代子



萌芽の候、ご清栄のこととお喜び申し上げます。いつもお世話になり、誠にありがとうございます。
今年度は、一社)兵庫県助産師会として法人化されて初めての近畿地区研修会を担当いたしました。2年間、自分たちの仕事と並行しながら、企画・実行委員の皆様と知恵と力を合わせて準備運営に当たってきました。会員のリーダーシップと連帯の強さ、熱い思い、成長していく姿を間近に見ることができました。そして10月23・24日に、岡本会長を始め各方面でご活躍の講師の方をお迎えし、会員の皆様にもご参加いただき盛会となりました。これもひとえに、多くの方がこの会を支えてくださった賜物であります。心より感謝申し上げます。

また、臨時社員総会を2回行い、皆様にはご負担をおかけしました。おかげさまで代表理事としての大きな宿題を無事終えることができました。改定された定款と役員選挙管理規程が皆様に浸透しますように努力いたします。また、臨時社員総会后すぐに、新しい定款と役員選挙管理規程のもと、選挙が始まりました。一人一人が当会に関心を持ち、助産師会の方向を見据えて投票していただきますようお願い申し上げます。

助産師会は助産所部会、保健指導部会、勤務助産師部会とそれぞれ特色を持ちながら助産師活動をしている職能団体です。その特色を活かしつつ、母と子に様々な時期に切れ目ない支援をするために多職種との連携を取りながら、会員の成長、助産師会の発展につなげていきたいと思っております。

今後も、皆様のご協力・ご参加を重ねてお願い申し上げます。

平成28年度 一社)兵庫県助産師会 社員総会

日時：平成28年5月22日(日)

10:00～(予定)

会場：学校厚生会館

平成28年度 公社)日本助産師会 総会

テーマ：「ありがとう 繋がるいのち 見守るいのち」

～超少子高齢化社会における助産師の役割～

日程：平成28年5月26日(木)～28日(土)

会場：仙台国際センター

部会だより



〈助産所部会〉

部会長 稲生 佐枝子

助産所部会では、隔月で部会集会を開催して、県内の助産所間の交流と理事会や各委員会の報告や連絡などを行い、搬送事例などの検討も行っています。分娩を扱う助産所は年々減り、現在は16軒となりました。県内の助産所分娩数も年々減少していますが、産後ケアの入院数は増えています。このように、時代の流れとともに助産所の役割も変遷しています。助産所部会では、「地域で妊婦さんを含む家族ごとケアし、自然なお産を手伝い、育児につなげていく」という日本の伝統的な助産師の役割を残すために、力を合わせなくてはと考えています。

平成28年度は、助産師の技の伝承の勉強会などを開き、他の専門部会の方々にも参加していただき、交流もできればと計画しています。

〈保健指導部会〉

部会長 藤尾 さおり

今年度は「会員相互の連携を図る」という目標で、活動しました。日本助産師会主催の母子訪問指導講習会の伝達講習を含む3回の定例会を実施しました。3回目の定例会の後には交流会も開催し、お互いの活動について発表し合うなど、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

近畿地区研修会では、部会内から11名が実行委員として参加しました。それぞれの役割を發揮し、会員同士の交流も深めながら研修会の成功に貢献することができました。その他、各委員会（子育て・女性健康支援センターや産後ケア事業など）へのスタッフ派遣など協働参画をしました。

先輩方はじめ皆様のご協力及びあたたかいお声かけにより、無事今年度の活動を終えることができ、とても感謝しております。

来年度は、会員各自がそれぞれの地域でよりよい母子保健指導を行えるように、部会内の会員が講師となり研修を計画しています。

〈勤務助産師部会〉

部会長 浦島 裕美子

平成27年度勤務助産師部会では、7名の新役員を中心として偶数月の第2土曜日に定例会議を行ってきました。昨年11月には、姫路赤十字病院で「乳幼児の行動と観察ポイント」、平成28年1月には加古川西市民病院で「BFHIを学ぼう」の学習会を開催することができました。非会員の方にも、多数ご参加いただきました。

平成28年度の目標として、昨年度同様、①組織の強化にあたり会員増員 ②助産師として質の向上に努めることに取り組みたいと考えています。具体的には「院内助産」「新生児」「母乳育児」をキーワードに皆様の興味ある学習会を計画していきます。5月には、八鹿病院の院内助産システムの学習会・病院見学を計画しています。勤務している助産師が元気になる研修を多く企画したいと考えています。兵庫県内で働く助産師が母子との関わりの中、益々勤務先で輝いていけるよう今後もお手伝いしたいと思います。

平成27年度 ブロック代表・専門部会長・理事 合同会議報告

ブロック代表・専門部会担当理事 毛利 多恵子

平成27年12月19日（土）、兵庫県助産師会事務所において会議が開催されました。

出席者は、各専門部会長3名、ブロック代表者6名、理事監事8名が参加しました。

岸本会長より理事会報告、各ブロックおよび各部会長からの報告、定款委員長より定款改正および役員選挙管理規程の趣旨と改正内容の説明があり、意見交換を行いました。各部会の次年度の事業計画についても報告されました。詳細については、ホームページ会員専用ページの議事録をご参照ください。

■ 定款改正および役員選挙管理規程改正への質問と意見

質問 定款改正は先日の臨時総会で否決されたのに、どうして定款改正となるのか？

理事会回答

理事会では代表理事登記時、法務局から指導を受けたので、総会では否決されたが、定款改正することを決議した。その理由は、現在の定款に則った方法で前会長が会長を継続したことは法人法上違法であること、選任された理事の中から代表理事を決めず6ヶ月経過したことは懈怠であることと法務局から指導を受けたからである。法務局の指導に沿って法人法に則った定款に変えることが理事会の役目だと考えている。

意見

- ・ 将来を担っている世代としては今改正しておいてほしい。感情論ではなく、法律として不備があるのであれば今改定して、将来の会をよくしてほしい。
- ・ 定款改正は大変な事で、変えていく事が必要だと思う。何故変える必要があるのかも理解できたので、委任状もしっかりだせるようにブロックにも働きかけたい。
- ・ 一般社団法人として定款改正する事は理解できている。改正そのものに反対の人、改正の内容に一部理解できていなかった事で白票となっていると思う。
- ・ ブロックからの推薦による選挙のシステムがよくわからない。前回、ブロックから推薦した人が否決された時は辛いので、是非改正してほしい。
- ・ みんなが納得できるルールを作る必要がある。ブロックによって活動内容や機能が違うまま、同じように責任発生するので、いろいろな問題がでるのではないかな？
- ・ 定款については、兵庫県独自のものを盛り込み折り合いをつけながら、自分達の意見が一番よいというのではなく、双方がもう少し寄り添えればよいと思う。

■ 各専門部会の事業計画

助産所部会：姫路地区に連携医療機関を確保できたことは、大きな進展である。産後ケア事業も強化していきたい。

保健指導部会：横のつながりが弱いと強化していくよう働きかけたい。ベビーマッサージ講師養成コースの再開を検討したい。

勤務助産師部会：1月23日に加古川市民病院にBFHIの研修会と交流会を開催予定。

5月に公立八鹿病院の院内助産の研修会と交流会を開催予定。

部会を超えての参加をお願いしたい。

定款規程検討委員会

定款規程検討委員長 鈴木 江三子

平成28年2月11日(木)に開催した、平成27年度第2回臨時社員総会において、第一号議案定款改定(案)が審議されました。総社員数332名、出席者数54名、委任状237名、合計291名、総社員(332名)の議決権の3分の2以上(222名)を満たしているため採決をおこないました。賛成256、反対29、白票1、棄権5、総社員(332名)の議決権の3分の2以上(222名)により可決されました(定款第17条2項より、定款の変更に関する決議については、総社員の議決権の3分の2以上が必要である)。

定款改定は不必要であるという声も一部には根強くありましたが、社員の多くの賛成を得て可決されました。そこに至るまでには社員対象の説明会を何度も開催し、定款改定に向けた臨時社員総会開催の必要性について、理解を促すことに努めました。

平成26年10月、法務局より、代表理事の選任が遅れたことに対する業務懈怠(けたい)の注意喚起があり、法人法に即した定款であることと、法人法上、必ず盛り込むべき必要事項の記載が不明確であるとの指摘も受けました。「社員は一つの議決権をもち、社員が選んだ理事が代表理事を選定する」この内容が明示されていなかったのです。これが理事会設置型社団法人の骨子となり、本法人を運営する上での道標にもなります。

今回の定款改定を通して、法人法の内容をしっかりと学ばせて頂いたことは、理事全員にとっても実り多いものであったと思います。

選挙管理委員会

選挙管理委員長 山名 華代

現在、新しい役員選挙管理規程に則り、役員選挙および専門部会長選出を行っています。先日、社員のみなさまから推薦用紙および投票用紙が選挙管理委員会へ届けられました。ご協力いただきありがとうございました。開票作業を行い、得票数の多い方から順に被推薦者とし、委員会から通知を発送して被推薦者の届け出を受付けているところです。

役員候補者が決定した後は、5月22日(日)に開催される社員総会において、役員選任に関する決議が行われます。ぜひ社員総会へご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

表. 推薦用紙および投票用紙回収状況

	配布数	回収数 (回収率)
全体	327	162 (49.5%)
役員候補者推薦用紙	327	159 (48.6%)
専門部会長投票用紙	327	160 (48.9%)
助産所部会	41	25 (66.0%)
保健指導部会	93	53 (57.0%)
勤務助産師部会	193	82 (42.5%)



教育委員会

教育委員 石田 弘美

助産師の能力向上、自律した助産師の育成を目指した「助産師のちからアップ」研修が無事終了しました。今年度は、クリニカルラダーレベルⅢ認証申請の初年度であったこともあり、多くの方の参加がありました。「助産師のちからアップ」研修は、非会員や他府県の会員にも人気の高い研修ですが、兵庫県助産師会の会員に多く参加してもらえるように、会員の研修費の見直しや研修補助券（3000円チケット）を配布しました。評価し来年度へつなげていきたいと思えます。また、今年度はクリニカルラダーレベルⅢ認証申請を考慮し、新生児蘇生法研修に多くの方が参加できるよう、受講人数を増やしました。しかし、受講できなかった方もいたため、来年度も開催を計画しております。

私は「助産師のちからアップ」研修の1期生です。どの研修も魅力的な講師陣がそろい、有床助産所の実地研修があるなど、他の研修では学べない貴重な経験ができました。現在は教育委員として研修に携わっていますが、素晴らしい研修企画の裏には助産師会ならではの研修目標の設定、助産師会のネットワークを活かし、著名な講師の先生方をお招きするなどの努力があることがわかり、日々勉強させて頂いています。

来年度も多くの方に参加してもらえよう興味深い研修を企画しています。日頃の助産師力アップにつなげていただけたらと思えます。

全コース修了生の声

知識不足を感じていたため、敷居が高かったが、仲間と一緒に参加した。「産婦さん患者さんとちゃんと向き合えていたか?」「知識に基づいていたか?」と刺激になった。職場に持ち帰り、実践していきたい。

助産の知識、看護師との違いについて考えていた。ここに来ると、改めて「助産師だった!」と思えた。刺激になり、成長できた。



平成 27 年度 ちからアップ研修
全コース修了生のみなさん

福祉厚生委員会

福祉厚生委員長 秋山 敦子

福祉厚生委員会では、地域で広く多方面にわたって活躍されている助産所部会・保健指導部会の皆様より健康な毎日と、労働安全衛生法に基づく定期的な健康診断受診の推進を目的に、健康診断受診状況のアンケート調査を行いました。結果は以下の通りです。

調査対象者：133名 実施時期：平成27年9月～10月

回答者数：助産所部会 39名 保健指導部会 55名 合計 94名 回答率：71%（無回答2名除く）

アンケート内容	助産所部会 人数(%) n=39			保健指導部会 人数(%) n=55		
	毎年	2年毎	なし	毎年	2年毎	なし
①受診状況	34(87.2)	2(5.1)	1(2.6)	43(78.2)	3(5.5)	9(16.3)
②受診場所	病院	保健所	近医・地域	病院	保健所	近医・地域
	15	3	35	23	8	32
③受診内容	血液・感染症	血圧・検尿	胸部XP	血液・感染症	血圧・検尿	胸部XP
	38(97)・21(54)	37(95)・34(87)	32(82)	51(93)・25(45)	49(89)・47(85)	42(76)
	心電図	胃癌・大腸癌	乳癌・子宮癌	心電図	胃癌・大腸癌	乳癌・子宮癌
	26(67)	8(21)・9(23)	6(15)・7(18)	33(60)	9(16)・8(15)	6(11)・5(9)
④夜間勤務者の 2回受診	夜間勤務者数	2回受診する	していない	夜間勤務者数	2回受診する	していない
	23(59)	18(78)	5(22)	11(20)	8(73)	3(27)
⑤受診しにくい理由	・夜勤との兼ね合いで受診しにくい ・時間がない(子どもが幼い) ・高額だから ・休職中、妊娠出産の為 ・病院勤務ではなくなった					
⑥日頃からの健康管理	・バランスの取れた食事 ・旬のものを食べる ・有機野菜を食べる ・良く寝る ・プラス思考で暮らす ・ストレス発散 ・いらいらしない ・無理しない ・オンとオフを使い分けて精神衛生管理 ・手洗いうがい ・冷え対策 ・スイミング ・ヨガ ・ラジオ体操 ・真向法体操 ・歩数計をつけて1日の歩数管理					

今回のアンケート結果より、概ね健康診断を受診されていますが、以下の3点が示唆されました。

- ①結核に感染・発症した時の影響や対応の重大さを考慮して、胸部レントゲン検査は100%受診が望まれる。
- ②夜間勤務者には、労働安全衛生法に明記されている「年2回の健康診断」をすすめる(1回目で異常無ければ、2回目は検尿、血圧測定のみで良い)。
- ③近年増加傾向の大腸癌(検便)・乳癌など、各自で癌検診を受診し癌の早期発見に努める。



お母さんと赤ちゃんの命を守るためには、
自分自身の体も大切に…。
健康診断を受け、健康増進に努めましょう！



公益社団法人日本助産師会近畿地区研修会報告

近畿地区研修会 企画委員長 藤井 ひろみ

今年度は、平成 27 年 10 月 23・24 日に兵庫を担当県として、(公社)日本助産師会近畿地区研修会が開催されました。2 日間でおおよそ 370 名の方に参加していただきました。

テーマを『いのちと性をまもる』とし、1 日目は「災害といのち」というテーマで、阪神淡路大震災から 20 年の節目に、震災の経験から助産師が得たものをシンポジウムであらためて分かち合い、そして今後の災害への備えを室崎益輝先生のご講演から学びました。2 日目は「助産とコミュニケーション」を、災害被害者への支援にも尽力されている劇作家の平田オリザ先生と同じ舞台上がってのワークショップで学び、午後は性暴力被害予防や被害者支援に助産師ができることについて、シンポジウムを通じて考えました。

研修会開催にあたっては、企画委員・実行委員として 45 名の兵庫県助産師会会員が力を合わせました。研修会全体において、私たち助産師のホスピタリティと、女性たちや子どもたちの「いのちと性をまもる」という助産師魂が、みなぎっていたように感じます。このような力を引き出してくれる場を与えてくださった、日本助産師会や兵庫県、神戸市など関係機関及び関係者の皆様に、心より感謝いたします。

来年の近畿地区研修会は大阪で開催されます。そしてまた 2021 年には、兵庫県での開催が予定されています。近畿地区研修の感動から、おおよそ半年がたった現在、研修に関わった一人一人が、あの時の学びをその後の助産に活かすために・・・と自問自答していることと思います。そのような日々の積み重ねの向こうに、また次の 6 年後を迎えたい、と心から願っております。



開会式



会長講演「助産師の夢」
熱く語っていただきました

充実した 2 日間
でした！



企画委員を中心に、多くの会員が運営に携わりました



懇親会では、助産師フラチーム「ゴスペルフラ」の
華やかなステージも好評でした

ようこそ!

新入会員の皆様

よろしく
お願いします!

助産所部会【2名】	保健指導部会【4名】	勤務助産師部会【23名】	
宇佐見友里（神戸）	青木 優子（北播磨）	魚原 瞳（神戸）	富田 照枝（北播磨）
並河 麻美（阪神南）	杉山 美佳（阪神北）	梅崎 七海（阪神南）	中濱 磨美（神戸）
	田口沙緒里（神戸）	梅田 美保（神戸）	七瀬瑠里子（神戸）
	吉澤 江美（阪神北）	緒方 盛子（神戸転入）	西村 明子（神戸）
		金子 紀子（神戸）	野崎真理子（中播磨）
		川村恵津子（阪神南）	羽座 典子（阪神北）
		國 由紀子（阪神北）	松原 智恵（神戸）
		小林みゆき（神戸）	宮村 昌子（阪神北）
		齋藤 雅子（北播磨）	森川 知昭（神戸）
		笹川美紀子（東播磨）	山下 生子（阪神南）
		瀧下 祐貴（神戸）	山本真祐未（東播磨）
		田中かほる（神戸）	

五十音順

会員総数 337 人（平成 28 年 2 月 29 日現在）

新規会員募集中!!（まだ入会されていない方に入会をお勧めください）



継続申請書に
メールアドレスの記入を
是非お願いします。
タイムリーな情報発信に
ご協力ください!

※兵庫県助産師会 事務局※

TEL : 078-362-1310（月～金）10:00～16:00

FAX : 078-362-2737（24 時間送信可）

Email: info@hyogo-josanshikai.com

編集後記

今季はインフルエンザが猛威を振るっておりましたが、ようやく春めいた暖かい日が増えてまいりました。代表理事、各部会長・委員長の皆様をはじめ、多くの方々のご協力のもと、本号をお届けすることができましたことを感謝いたします。今後も、活発な取り組みを生き活きとお伝えしていければと思います。

広報委員 菅長 由香理